

安定供給問題の解決に向けた取組み

Meiji Seika ファルマ株式会社
代表取締役社長
小林大吉郎

Meiji Seika ファルマについて 企業概要

- 明治グループはチョコレートなどの食品を扱う「株式会社明治」、医療用医薬品を扱う「Meiji Seika ファルマ株式会社」、ワクチンなどを扱う「KMバイオロジクス株式会社」から成る企業グループである

明治ホールディングス株式会社

食品セグメント

- 株式会社 明治

乳幼児から高齢者まで幅広い世代のお客様に、粉ミルク、牛乳・乳製品、菓子、スポーツ栄養食品、流動食など多岐にわたる商品をお届けしています

医薬品セグメント

- Meiji Seika ファルマ株式会社
- KMバイオロジクス株式会社

— Meファルマ株式会社

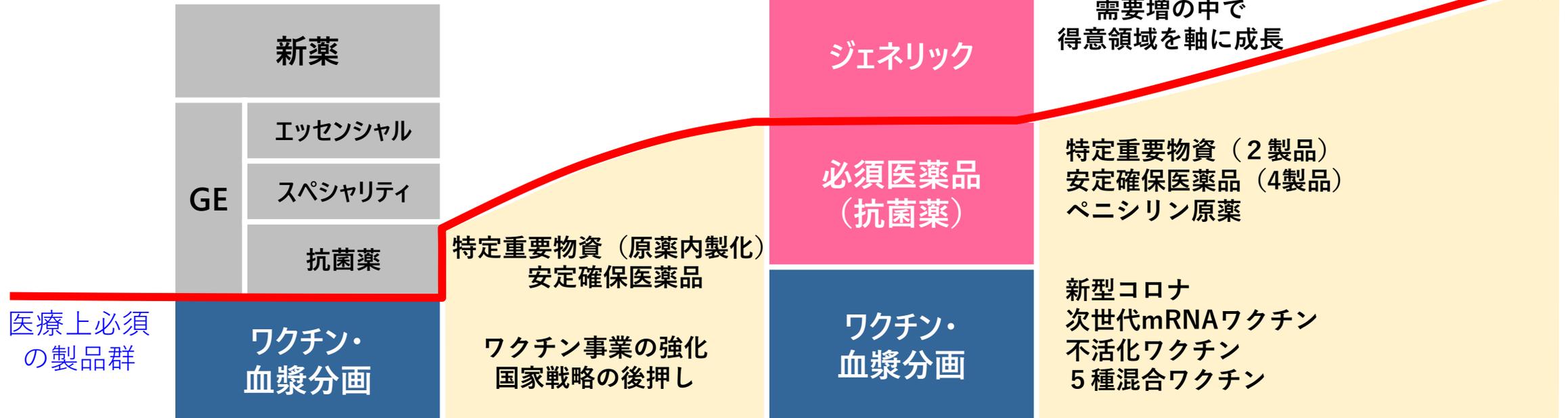
— Meiji Seika ファルマテック株式会社

感染症・中枢神経系疾患治療薬、後発医薬品、ワクチンなどの医療用医薬品事業をグローバルに展開するとともに、動物薬事業も推進しています

明治グループ医薬品事業のポートフォリオ

2026中計

2020中計以前

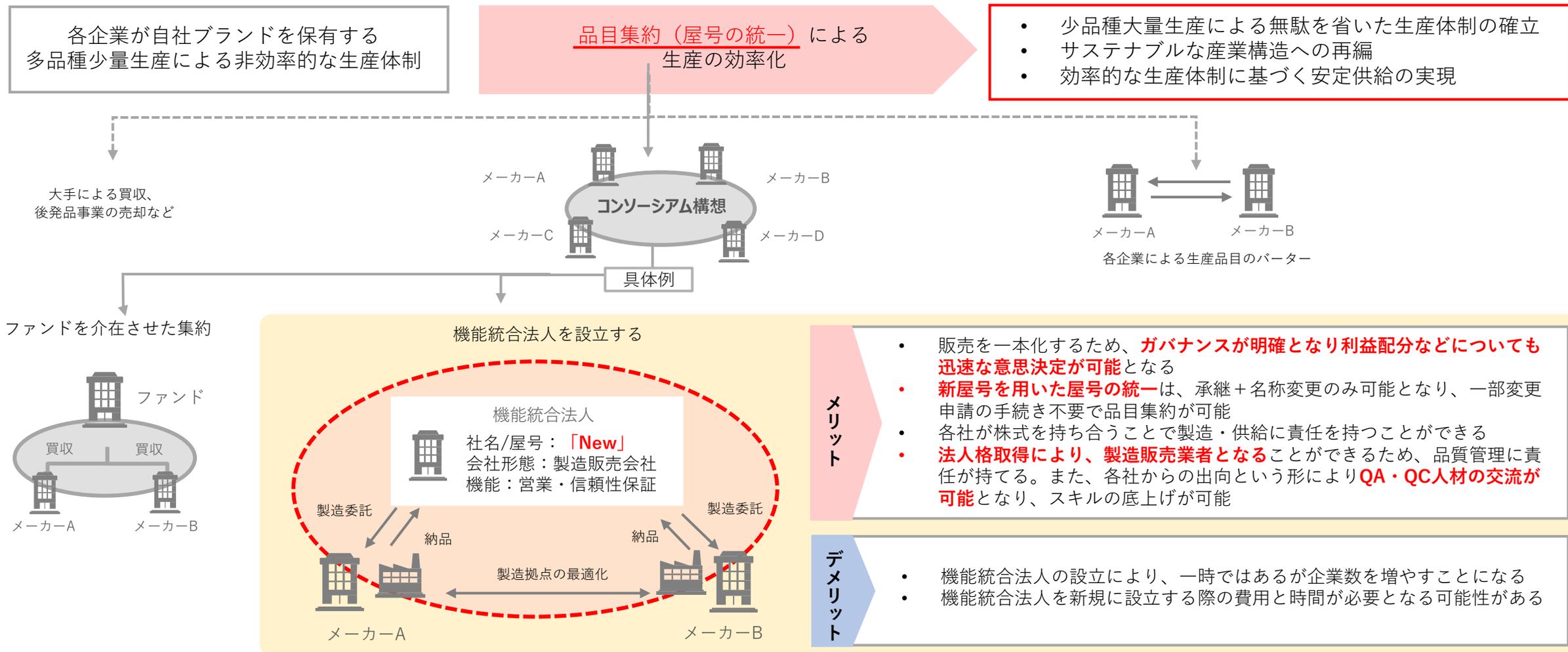


Meiji Seika ファルマの企業間連携における基本的なスタンス

- 当社では、政府による財政支援の下、大塚化学・富山化学とコンソーシアムを形成し、特定重要物資の国産化を推進してきた実績がある
- この取り組みは、後発医薬品の生産においても大いに活用できると考えており、当社としては後発医薬品の生産効率化に向けた企業間連携のリーダーとなる用意がある
- 政府による規制面・金融面・財政面において支援がいただければ、企業間連携はなお一層加速化することが出来ると考えている

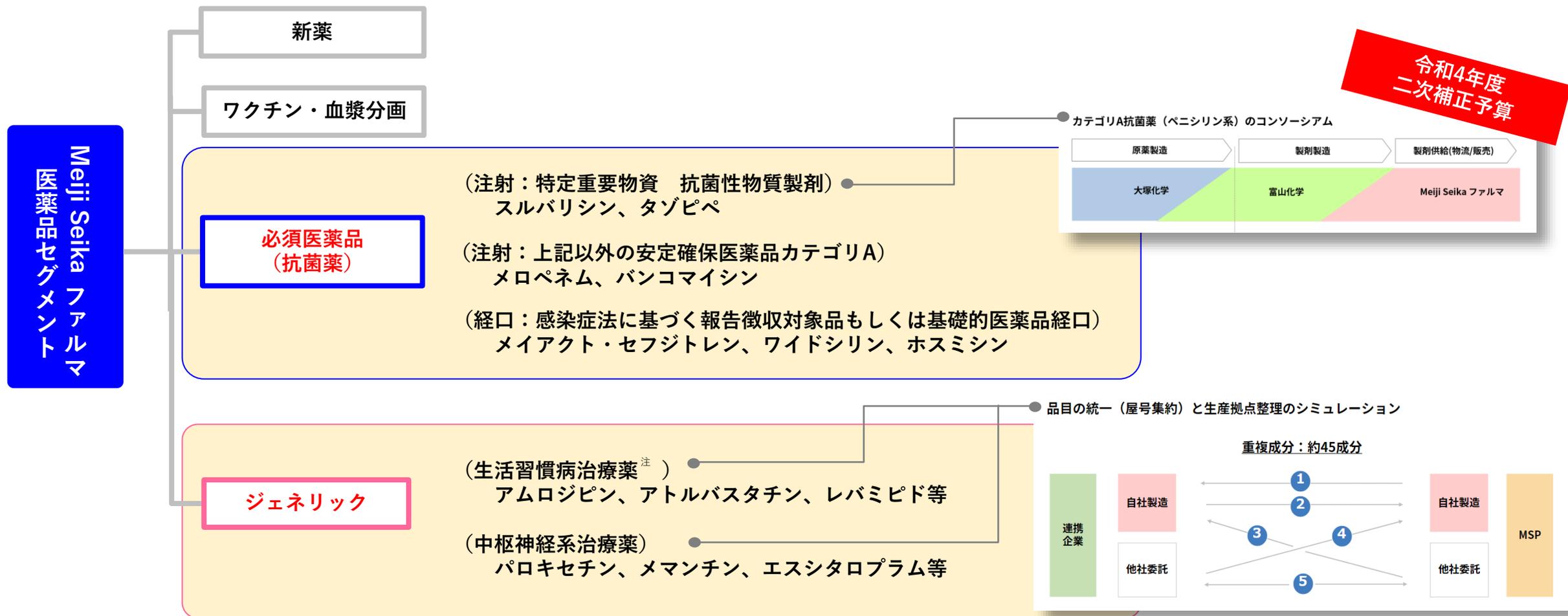
企業間連携（コンソーシアム構想）の実現に向けた手法

- 資本参加を伴わない、ゆるやかなコンソーシアムの形成は、一見すると受け入れやすいと思われるが、意思決定に時間を要する上に、リスクや利益の配分が難しい（ガバナンス上の問題が大きい）
- **機能統合法人を設立すれば**、各社で株式を持ち合うことによりガバナンス体制が確立され、迅速な意思決定の下、利益配分・製品の品質責任・供給責任の明確化を図ることが可能となる



Meiji Seika ファルマによる企業間連携（コンソーシアム構想）の例

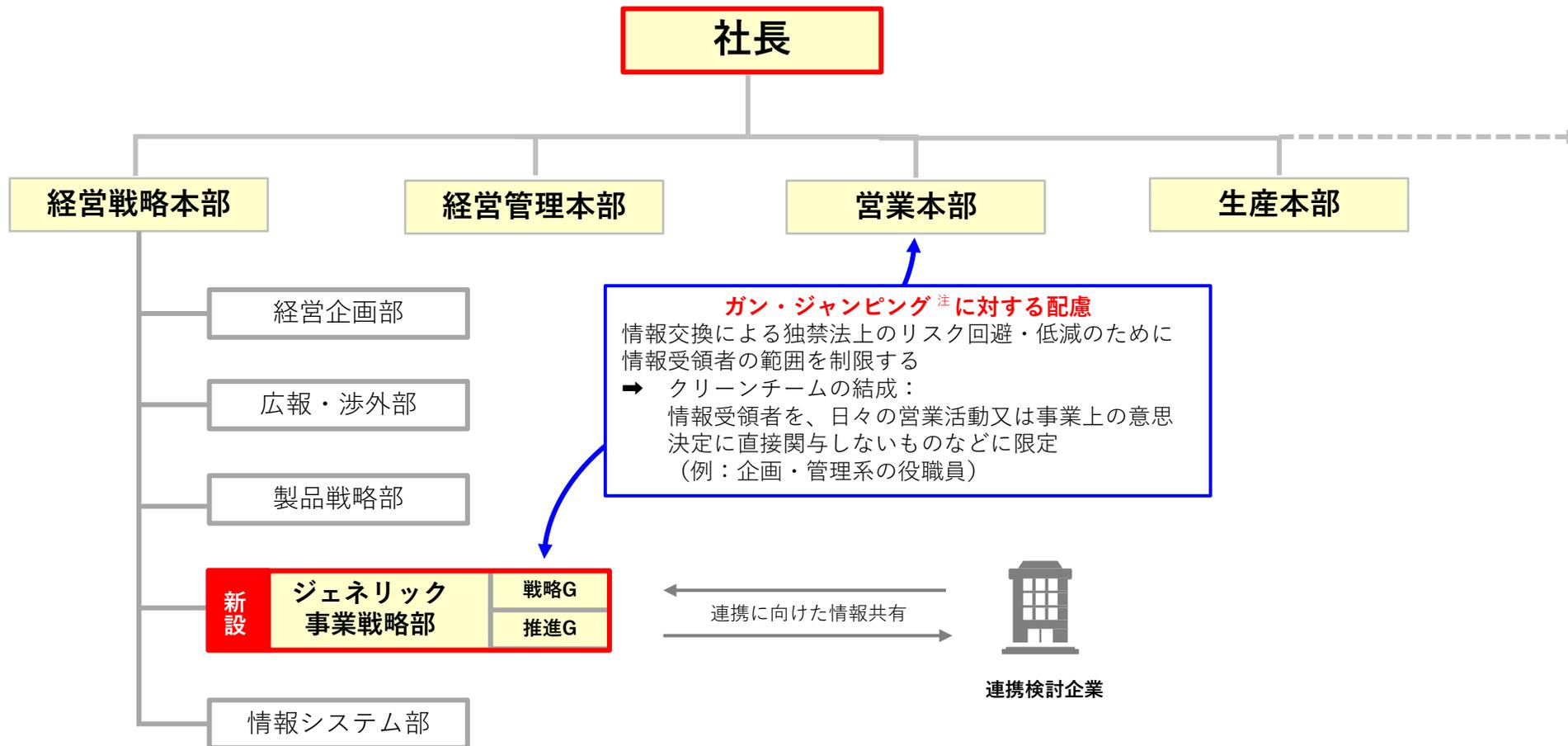
- Meiji Seika ファルマの医薬品事業は新薬・ワクチン血漿分画・必須医薬品（抗菌薬）・ジェネリックと4つの事業に区分できるが、必須医薬品（抗菌薬）においては、ペニシリン原薬の生産においてすでにコンソーシアムを形成して事業を推進している
- 同様の手法を用いて、ジェネリック（内服固形の生活習慣病治療薬など）においても安定供給体制を持続的に維持させることが可能であると考えており、既に連携可能企業の探索および具体的な交渉を開始している



注) 子会社のMeファルマ販売製品を含む

企業間連携（コンソーシアム構想）の実現に向けた社内体制の整備

- 社会課題となっている後発医薬品の供給問題解決に向けた有力なソリューションとして考えられる企業間連携（コンソーシアム構想）の実現に向け、専門に取り組む**ジェネリック事業戦略部**を2024年7月1日付で新設した
- 当該組織を経営戦略本部に新設し、経営トップによるスピード感のある意思決定を可能とする
- また、営業組織と切り離れた部署とすることで、企業間連携の際に懸念される情報交換による独禁法上のリスク回避・低減のために必要となる、クリーンチームとしての機能を果たす



注) ガン・ジャンピング：企業結合の実現前に企業結合実現後の効果を取捨選択すること